

■部会 Report

環境部会の活動紹介

環境部会長 山形 秀紀
(株)東洋設計 エネルギー事業部

(1) 環境部会会員

環境部会は現在 29 社 48 名で構成されています。部会員の構成は、風車メーカー/代理店 9 名、コンサル/エンジニアリング 16 名、事業者 17 名、O&M 4 名、その他 2 名です。

(2) 平成 25 年度活動報告概要について

風力発電を拡大していくためには、風車騒音、バードストライク等の諸課題に適切に対応することが求められ、平成24年10月から、風力発電が対象とされる改正環境影響評価法が施行されました。環境部会では、風況WGに加えて風車音、鳥類および環境一般（アセス等）に関するチームを立ち上げ、国内外の情報の収集、知見の集積、関係官庁等諸機関との連携に努めつつ、以下のような活動を主に行いました。

1) 環境部会

毎月 1 回の定例部会を開催し、活動報告や取り組みの検討等を行いました。

また、政策部会とともに、「風力発電に係る環境影響評価の課題に対する検討委員会」を開催し、検討委員会としての助言書を作成しました。

経済産業省電力安全課主管の「発電所アセスの手引き」に風力発電所を追加するための改定作業に協力し、提案・説明・要望等を行いました。

2) 風車音チーム

風車音に関する最新動向を把握するため、国際学会「Wind Turbine Noise 2013」の発表内容をとりまとめ、部会員に説明を行いました。

また、環境省水・大気環境局が主催する「風力発電施設から発生する騒音等の評価方法に関する検討会」およびその「分科会」等を傍聴し、部会員に説明を行いました。

3) 鳥類チーム

日本鳥類保護連盟 柳澤理事を招き、猛禽類、バードストライク、調査手法、保全対策等に関する意見交換会を開催しました。

また、「球体モデルによる風車への鳥類衝突数の推定法」について勉強会を実施しました。

4) 環境一般チーム

「計画段階配慮手続きに係る諸課題」として、JWPAとしての考え方をとりまとめ、経済産業省電力安全課に説明を行いました。

5) 風況WG

風力発電に係る「風況および風車の性能評価」等に関する技術的テーマについて、最新の知見を得る目的で主に海外の文献を輪読しました。

(3) 平成 26 年度活動計画

部会下部機関のチームとして平成 25 年度に設立した「風車音」、「鳥類」及び「環境一般」を本年度から WG に改組し、これまでの活動を継続展開していきます。また、「風況」WG については近時の活動内容を踏まえ技術部会に移管することと致しました。

平成 26 年度の事業計画の概要を以下のとおりです。

1) 風車音WG

- ①風車音（発生音・受音）に関する科学的根拠や専門的知見等の調査・蓄積
 - 1) 環境省を中心とした調査・研究内容の把握・整理
- ②風車音の調査・予測・評価手法等に関する調査・検討
 - 1) 風車音計測手法の明確化
 - 2) 風車音予測・評価手法の明確化

- ③風車音（風力発電施設 or 事業）を取巻く社会環境（情勢）の調査・把握
 - 1)環境省実態調査（2010FY）の追跡調査
 - 2)風車音への苦情等に関する情報整理・分析
 - 3)“分かりやすい風車音”説明内容の検討・作成
- ④風車音に関する国内外の制度・政策に関する動向等の調査・整理
 - 1)環境省検討会（&分科会）の動向把握
 - 2)国・地公体の動向把握
 - 3)国内外の風車音関連基準等の調査・整理

2) 鳥類 WG

- ①希少種データ活用
 - ・アセス迅速化、建設地選定、調査内容低減化（重点化）のため、公的機関・関係団体等所有データ収集・活用を目指し、データの所在確認、ヒアリング、データ整理を実施
 - ・収集データ：希少鳥類生息状況（営巣地・飛翔状況、渡り鳥のルート・集結地等）
 - ・対象種：希少鳥類、渡り鳥（天然記念物、種の保存法対象種、RDB 対象種等）
- ②意見交換会
 - ・年度内に 2 回程度意見交換を実施、ネットワーク構築や希少鳥類等の情報を得る
候補：大学の専門家、環境省環境影響評価課等、日本野鳥の会、日本鳥類保護連盟

3) 環境一般WG

- ①アセス配慮書の評価方法の JWPA としての方向性の統一
 - ・協会員へのサンプル提示
- ②アセス配慮書、方法書、準備書、評価書への指摘事項の整理
 - ・JWPA 会員に対して環境審査顧問会の質疑、環境省 Q&A 等の提示を依頼し、対応の基本的な考え方の共有を図る
- ③JWPA 環境アセスメント自主規程の改定

4) 「風力発電に係る環境影響評価の課題に対する検討委員会」助言書のへ対応

平成 26 年 3 月 31 日付で JWPA 風力発電に係る環境影響評価の課題に対する検討委員会から助言書(中間報告)が提示されました。

具体的には、課題解決のための方向性、具体的に検討を要する項目、国等への取り組みを求める事項について、多岐にわたって示唆されています。

環境部会では、政策部会と合同会議を開催して、効率的・効果的な環境影響評価の在り方の実現を目指して、この助言書で示された課題解決の作業を推進していきます。

また、環境部会の各 WG を中心に個々の課題のうち既存のモニタリングデータの収集・解析をはじめとする事後モニタリングに関する各種検討、活用などについて進める予定です。

- ①事後調査データの収集・解析
- ②事後モニタリング手法の検討・確立

(4) WG へのお誘い

以上が環境部会の昨年度の活動報告と今年度の活動計画です。

今年度は環境アセスの迅速化、効率化を図るため、また、環境に関する様々な課題に対応していくために、WG の活動が重要な年となります。

年度当初は一部の WG のメンバーが大幅に減少し、存続の危機にさらされました。幸いにも各 WG とも 10 名以上のメンバーが参加することとなり、ホッと一息というところですが、前述の本年度の活動計画内容が厚く、参加者の負担が大きくなることが想定されます。

そこで、協会員の皆様には積極的に WG へ参加いただき、風力発電の直面している大きな課題と一緒に取り組んで頂ければ幸いです。

WG への参加は、JWPA 事務局へご連絡頂ければ OK です。

最後になりますが、今年度からの環境部会長拝命であり、至らぬところが多々出てきますことご容赦願いますとともに、微力ながら頑張らせていただきますので、宜しく願いいたします。

以上